

2020.3.1 発行 (Vol.2)

編集・発行 余市町建設水道部水道課

TEL : 0135-21-2130 / FAX : 0135-21-2144

〒 046-8546 余市郡余市町朝日町 26

HP : <http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/>

老朽管の更新事業を 進めています

平成二九年度より「重要給水施設配水管耐震化事業」として、地震などの災害発生時でも断水させることができない、医療機関、避難所、公的機関へ続く水道管の更新を行っています。



(平成 30 年度重要給水施設配水管更新工事の様子)

●水道管の老朽化が 進行

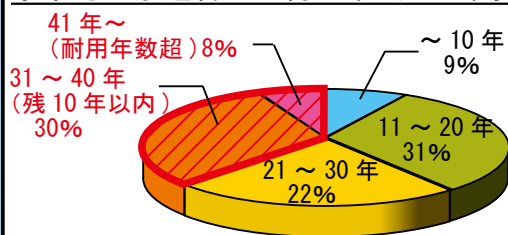
浄水場から重要な施設までの水道管は余市町の水道創設時(昭和二九年ころ)に布設された管が一部残っており、布設してから六六年が経過し、老朽化が進んでいます。

法定耐用年数を超えた水道管を放置しておくとおと大規模な漏水事故による断水、広範囲におよぶ濁水の発生により、住民の皆様生活に多大な影響を与える恐れがあります。その為、水道課では、老朽管の更新を行うと同時に、地震などの災害にも強い水道管への更新を行っています。

●計画的な更新

町内の重要な施設につながる水道管路は約四五七kmあり、そのうち、

余市町の水道管の老朽化率 (H30 年度末)



※水道管の法定耐用年数…40年
今後10年で約40%の管路が法定耐用年数を超える見通し

老朽し破裂した水道管の深夜の復旧作業

(平成 27 年 5 月 富沢町)



破損のため撤去した水道管
(昭和 29 年布設 φ 250 mm)

更新(耐震化)が必要な管路は約四〇kmあります。(直線距離でイメージすると余市から札幌の手稲あたりまでの長さがあります)

平成二九年度から「重要給水施設配水管耐震化事業」を実施して三年目となりますが、この間で約二四km(平成三〇年度末)の布設替えを行いました。

老朽管の更新費用は工事を行う場所や水道管の口径にもよりますが、おおよそ1mあたり約十三万円ほどになります。

更新の優先度やダウンサイジング(※)などを検討し、事業費を圧縮しつつ、今後も計画的な更新を行っていきます。

※ダウンサイジング：ノスト削減や効率化を目的としてサイズを小さくすること

水道あれこれ 水道水が白い??

●時間が経つと透明になるとき

まれに蛇口から出る水道水が白くなることがありますが、コップなどに入れたときに下の方から徐々に透明になってく場合、原因は空気によるものであり、全く問題ありません。これは水道水を蛇口から勢いよく出すことにより水にかかる圧力が急に変わり、水に溶けている空気が気泡になることで水が白く濁って見える現象です。



汲み置き直後



下から徐々に・・・



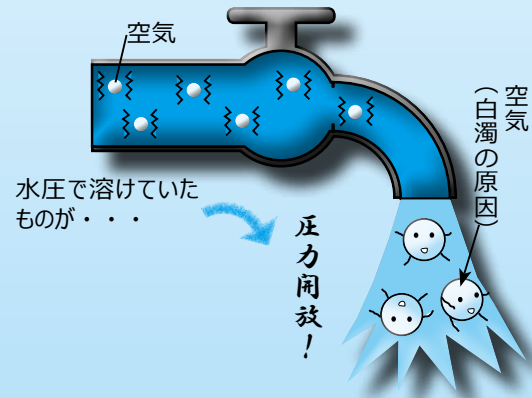
透明になる

水温が低いほど水の中に溶け込む空気の量が多く、水温が高くなると溶けきれなくなると、冬期間は、この現象が多く見られることがあります。給湯器からのお湯でも同じことが起こるため、お湯が白く濁って見える事があります。

また、配水管の更新工事の際古い水道管から新しい水道管へ切り替えるときに、空気が混入してしまう場合があり、一時的に同じような現象が起こることがあります。現在町内では毎年配水管の更新工事を行っており、工事箇所付近で白い水が出てしまふことがあります、全く問題ありません。

●その他の場合

「自宅の水道管に亜鉛が含まれている場合、水道水に亜鉛が



溶け出して白く濁ることがあります。この現象は、水道管内に水が滞留している時間が長い程起こりやすく、朝の使い始めなどに見られます。

亜鉛は体に必要な元素であり、必要以上の量を摂取しても体外へ排出されるため、心配ありませんが、白い水が気になる場合は、朝使い始めに水道をしばらく流しっぱなしにするか、掃除などの雑用水として利用しましょう。

※亜鉛が含まれた水道管は昭和四〇年代に広く使用されましたが、白い水や赤い水が出ることから現在は使用されていません。

◆むかしむかしの水話◆ ～余市町水道の創設期～



今から約 66 年前（昭和 29 年）
～水道管布設状況～

町内で水道が使われはじめたのは、今から 60 年以上前の昭和 29 年のことです。昭和 31 年当時、町の水道の様子が「区会だより」に次のように掲載されています。

「おかあさんと水道」

大川小学校 5 年生

わたしの家では、ポンプ式の井戸水を一家総出で汲んでいてお風呂も井戸水で沸かしていました。お湯が熱いときに、おかあさんに「お水」と叫ぶとおかあさんは「ああいそがしい」と言って

ポンプで水を井戸から汲んでお風呂に水をいれてくれました。

でも、水道がお家に来てくれたおかげで、おせんたくやそうじもポンプをおさなくてもよいのでおかあさんのしごとは大へんらくになり、おかあさんのかほも明るいです。

昭和 31 年末時点では全町で 50% ほどの普及率であり、地区別では沢町：75%、入舟町：69%、黒川町：58%、大川町：16%と、町の西部地区が高い普及率だったようです。（『区会だより』昭和 31 年 12 月）



写真：『区会だより』
(昭和 31 年 12 月)

◆水道管更新工事にご理解とご協力をお願いします

水道課では毎年計画的に老朽管の更新工事を進めています。工事の影響により周辺にお住まいの皆様の水道水が白濁したり水圧の変動が生じてしまい、ご不便をお掛けする事がありますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

